資 料 2

成果物の構成について（素案） Ver.1.1

仮題：「伝え合うための言語コミュニケーション（力）」

目次

はじめに

Ⅰ　伝え合うことに関する基本的な認識
　１．なぜ今，伝え合うことについて検討するのか
　２．言語による伝え合いは，どのように行われているか

Ⅱ　これからの社会に求められる伝え合いの在り方
　１．言語コミュニケーションにおける四つの観点
　２．四つの観点を生かすために

Ⅲ　様々な伝え合い（言葉による伝え合いに関するＱ＆Ａ）

概要

はじめに

国語施策の経緯等

Ⅰ　伝え合うことに関する基本的な認識

私たちは，一人一人が異なる存在である。とりわけ現代は，価値観が多様化し，共通の基盤が見付けにくくなっている時代である。こうした「多様な私たち」を前提とした社会で生きていくためには，言葉を使った伝え合い（言語コミュニケーション）によって，情報と気持ちを共有し，互いの合意点を見いだしていくことが欠かせない。

言語環境が大きく変化する中で，何をどのように伝え合うことが望ましいのか，これは，複雑化した今日を生きる私たちの多くが抱える悩みである。

文化審議会国語分科会は，的確な言語コミュニケーションの条件を，言葉における「正確さ」，「分かりやすさ」，「受け入れやすさ」，「丁度良い距離」の四つの要素が，それぞれを生かしつつ，他と支え合う状態であると考える。

これらの観点をヒントとして提示し，言葉による伝え合いのために，どのような在り方が求められるのか，共に考えるきっかけとしたい。

１　なぜ今，伝え合うことについて検討するのか

（１）「コミュニケーション」という言葉に寄せられる期待

・「コミュニケーション」に寄せられる期待。

・「コミュニケーション能力」は魔法のつえか。

・「コミュニケーション」に関して，当報告が対象とする部分。（原則として，言葉に関する部分。）

（２）他者と自分との異なり

・人はそれぞれ異なった存在であり，（知識，能力，コミュニケーション観など。）伝え合いは他者との異なりを踏まえて歩み寄ろうとし,お互いの情報や気持ちを共有する作業。

・互いに対する期待を，知って満たそうとする努力の上に，伝え合いは成立。

・「コミュニケーション」に正解はないため，難しいと感じるのは当然。

（３）多様性の広がりと言語環境の変化

・多様性を重視した考え方が進む一方で，都市化，国際化，情報化などの進展により，伝え合おうとする他者との異なりが大きくなる傾向。

・情報化の進展による言語環境の変化によって伝え合う機会が圧倒的に増えたことに伴い，言語コミュニケーションに関する課題を意識させられる機会も増加。

・非対面による文字での伝え合い（メール，ＳＮＳ等）が言語コミュニケーションの大きな部分を担うようになった結果,対面や電話での伝え合いに対する意識が変化。

（４）そのほかの課題

・「察し」と言葉による伝え合い。

・「敬語」に対する意識の高まり。

・世代間のコミュニケーション観の相違（周囲に合わせようとする若者，一貫した自分であろうとする高齢者）。

・言葉に対する不寛容。　等

２　言語による伝え合いは，どのように行われているか

（１）言語による伝え合いのモデル

（知識のある人と知識を持たない人の会話，社交的場面での雑談など，対面における話し言葉による伝え合いを典型として取り上げ，モデルとして示す。）

・伝え合いの双方向性。

・他者と自分との違いについて洞察を働かせるとともに，伝え合いの状況を把握。

（２）伝え合う方法と媒体

・話し言葉　（主に対面の伝え合い）

・書き言葉
・打ち言葉　｝（主に非対面の伝え合い）

Ⅱ　これからの社会に求められる伝え合いの在り方

的確な言語コミュニケーションの条件とは，言葉における「正確さ」，「分かりやすさ」，「受け入れやすさ」，「丁度良い距離」の四つの要素が，それぞれを生かしつつ，他と支え合う状態であると考える。

これらの要素は，支え合うだけではなく，対立する側面もある。相手や場面，状況によって，どの要素を優先し，あるいは控えるのか，そのバランスをとることとなる。

（なお，「受け入れやすさ」と「丁度よい距離」については，「配慮」として一まとめにする考え方もある。）

１　言語コミュニケーションにおける四つの観点

<table>
<tr><th rowspan="2">観点</th><th rowspan="2">正確に</th><th rowspan="2">分かりやすく</th><th>受け入れやすく</th><th>丁度良い
距離をとって</th></tr>
<tr><th colspan="2">配慮して</th></tr>
<tr><td>留意事項</td><td>その情報は必要かつ十分か

信頼できる証拠に基づいているか

誤解を生じさせないか

言葉のルールにのっとっているか

正確に伝えるための語彙が使われているか</td><td>互いに分かる言葉を使っているか

独りよがりの表現になっていないか

互いの知識や理解力を洞察しているか

必要な言い換えがなされているか</td><td>違和感・不快感を抱かせるおそれはないか

場面に合った言葉を使っているか

豊かな語彙があるか

互いの言葉に対して寛容であるか</td><td>互いに遠ざかりすぎたり，近づきすぎたりしていないか（敬意と親しみのバランスがとれているか）

自分らしさが表れているか</td></tr>
</table>

２　四つの観点を生かすために

（１）正確に　…伝え合う情報を過不足なく誤解が生じないように

・専門家と非専門家の伝え合いにおける工夫
・誤解を防ぐ伝え合いの工夫
・言葉の意味の揺れへの対応
・「必要な語彙」に関する考え方　等

（２）分かりやすく　…互いが理解できるように

・文章・談話の論理的構成に関する工夫
・官公庁の言葉，公用文など，不特定多数を対象とした伝え合いにおける工夫
・他者と自身との異なりを踏まえた，互いの知識や理解力に対する洞察　等

（３）受け入れやすく　…互いに受け入れやすいように

・テーマ，内容，話題等のふさわしさに関する工夫
・取り上げる具体例等のふさわしさに関する工夫
・感じの良い語選択のための工夫　等

（４）丁度よい距離をとって　…互いの距離をうまくとって（敬意や親しみのバランスをとって）

・敬語の使用に関する工夫（「敬語の指針」の補足）
・敬語以外の表現に関する工夫（「現代社会における敬意表現」の補足）
・自分らしさを表す工夫　等

Ⅲ　様々な伝え合い（言葉による伝え合いに関するＱ＆Ａ）

Ｑ＆Ａ形式で，具体的な問題を取り上げ，解決のヒントを示す。その上で，関連する事項についての解説を行う。以下は，上記四つの観点に合わせ，Ｑ＆Ａを構造化・分類した例。おおよそ，この分類に沿って，取り上げる問いを検討する。

具体例は網羅的に取り上げることを目指すのではなく，他の場合にも応用可能な典型例を示すにとどめる。

（１）正確に伝え合うために
　①言葉のよりどころ・目安を守る
　　１）語彙力
　　２）表記のルール
　②言葉の揺れに注意する
　　１）変化の途上にある言い方
　　２）規範と実態
　　３）新しい言い方
　③誤解を防ぐ
　　１）音声に関わる誤解
　　２）文法に関わる誤解
　　３）状況ごとの言葉の選び方による誤解

（２）分かりやすく伝え合うために
　①知識や理解の差を埋める
　　１）簡潔さ―詳細さのバランス
　　２）平易さ―厳密さのバランス
　　３）比喩の使用
　②文章や話の組立てを工夫する
　　１）論理的に伝え合う
　　２）分かりやすく伝え合う
　　３）文章と談話，それぞれの組立ての工夫
　③言葉の目印の使い方を工夫する
　　１）接続詞の使い方
　　２）指示語の使い方
　　３）つなぎ言葉（フィラー）の使い方

（３）受け入れやすい言葉で伝え合うために
　①互いの関係を踏まえて伝え合う
　　１）上下関係
　　２）親疎関係
　　３）役割関係
　②多様な背景を踏まえて伝え合う
　　１）世代：新語・俗語

２）専門：専門用語・外来語
３）地理：方言
４）所属：学校・職場・地域社会
③目的に応じて感じ良く伝え合う
１）何かをお願いするとき
２）何かを交渉するとき
３）何かを相談するとき
４）何かを報告するときとき
５）雑談を交わすとき
④媒体の特性を理解して伝え合う
１）書き言葉のジャンル
２）話し言葉のツール
３）インターネット，メール
４）打ち言葉（ブログ，ＳＮＳ）

（４）丁度良い距離で伝え合うために
①敬語の使い方
１）互いを立てる
２）敬意とよそよそしさ
②親しさを示す言い方
１）互いに親しさを示す
２）積極性と干渉

概要

概要及びモデル図等の提示。